

令和2年度 第3回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】 令和3年2月3日（水）

午後2時00分～午後3時30分

【会場】 御前崎市文化会館ホール

1 出席者

- ・ 発言者 御前崎市・菊川市において様々な分野で活躍中の方
4名（男性2名、女性2名）

2 発言意見

番号	分野	項目	頁
発言者 1	移住定住	地域の魅力の発信	2
2	農業	手揉み製茶の振興、ビジネス化	5
3	地域防災	防災における女性の視点の重要性	9
4	環境保全	海岸の環境保全、準絶滅危惧種の調査	11
視聴者 1	—	浜岡原子力発電所の再稼働	16
2	—	産業廃棄物処理施設の設置	19

【川勝知事】 皆様、県知事の川勝平太でございます。今日の「平太さんと語ろう」という広聴会は異例の形です。素晴らしい会場なんですけれども、聴衆の方がいらっしゃいません。それから、この広聴会は、私がしゃべるのではなくて、私が広くお聞きします。そして、通常は会場の方たちがいらっしゃいますけれども、今YouTubeでご覧になっている方々にもお聞き願うと。ご質問に私が答えられない場合があります。しかし、必ずお答えすることになっておりますので、全てお聞きした上で必ずお返事申し上げ、また何らかの対応をするということで、これまで70回やって参りました。今回は71回目でございます。

今日、御前崎市並びに菊川市からは、男女おひとりずつ、計4人の方にご出席いただいております。それぞれご紹介にありましたように、非常に素晴らしいご活躍をされている方でございますので、ぜひ皆様方にしっかりお聞きいただきまして、私もそれをお聞きした上で、県政に活かして参りたいと思っているところであります。

御前崎市につきましては、灯台と美しい海岸で有名でありますけれども、最近では住民投票をなさって、それを市議会がきっちりと受け取られました。かつ、大変厳しい中、御前崎市長さんご自身で関連している会社に行かれて交渉されるという、非常に難しいことをされております。私はこういう市民の力を感じさせられたところであります。

また、御前崎には素晴らしい港があります。釣り文化振興モデル港は全国に16港あり、そのうち3港、5分の1弱が静岡県にあります。3港のうちの1つが御前崎港で、昨年認定されたという良いニュースが来ました。非常に美しい自然と海と、いろいろな産物に恵まれている所と承知しております。

菊川は、何と言っても深蒸し茶の源流でございます。今日は発言者2さんも来ておられますけれども、素晴らしいお茶の名人がいる所です。そして、選挙が最近ございましたけれども、菊川市民の皆様方の総意として、天浜線の社長として立派な活動をされた方が市長になりました。活動は未知数ですけれども、私どもも知っている素晴らしい市長を迎えられて、菊川に対する期待も高まっていることと存じます。

御前崎、菊川、隣同士でございますけれども、この地域を多くの方々に知っていただいて、また学ぶべきところを学ばせていただいて、これを県政に活かしていきたい、また御前崎市、菊川市の役にも立ちたいと思っているところでございます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【発言者1】 こんにちは。発言者1と申します。私は3年前に千葉県より御前崎市に移

住しました。今は、和食屋さんをリフォームしたペンション「The Green Room INN」を経営しております。見てのとおり、私は普通の主婦です。2歳と6歳の子どもがおります。県の方から、コロナ禍の今、地方移住に関心が持たれているので、子育て世代の私たちの御前崎移住の経緯や宿経営、県へのご要望があればとのことで、今日はこちらに立たせていただきました。今回この3点についてお話しいたします。

ではまず、なぜ御前崎へ移住したのか、お話しさせていただきます。簡単に言うと、御前崎の地を選んだのは私の主人です。そんな主人に連れられて、私も15年前からよく御前崎に来るようになりました。主人も同じく千葉県出身ですが、ニュージーランドの田舎に留学していたこともあり、田舎に住むことに学生時代から興味がありました。そして、新卒で社マンとして働いていた時、地方で都心の会社員と同じぐらい稼ぐ方法を真剣に考えるようになり、その後、全国転勤の会社へ転職いたしました。最初は浜松の勤務地でしたが、北陸に転勤した時も御前崎へ頻繁に通っていました。

一方、私は結婚後もまだ子どもがいなかったこともあり、帰省すると都内へ出かけることが多く、定住するならやっぱり首都圏内と、この頃は思っておりました。そんな生活を5年ぐらいした後、ひとり目の子どもを連れて北陸から実家へ帰省した時に、私の気持ちは動きました。少し前は当たり前だった人の多さや、生活にかかるお金の多さに違和感と住みにくさを感じたのです。そしてここに戻ることが絶対ではないと思うようになりました。確かに都心は刺激が多く魅力もありますが、子どもには自然が多い環境で人間らしく豊かに育ってほしいと思いました。それからは御前崎を訪れる時、定住の場所として前向きに考えるようになりました。夫婦の意見も重なり、主人の会社の希望勤務地制度を使って、まずは静岡市へ引っ越しました。そこから御前崎の物件探しが本格的になり、せっかくなら海に歩いて行ける場所に住みたいと思い、友人の紹介で現在の物件と出会いました。そこから1年かけて宿以外のできるところは家族でリフォームし、移住してきました。

うちの場合は、主人の「休み＝御前崎へ」という考えがずっと揺らがなかったことで、いっそ家族でそこに住んだほうが子どもと一緒にいられると考えました。平日の出勤はパパが頑張ればと。実は、私の両親には移住の話をなかなかできず、物件購入後に正式に話す形にいたしました。最初は驚いてがっかりしていましたが、今では心から応援してくれています。

具体的に気に入った御前崎の雰囲気の説明するのは難しいのですが、誰と会っても親切で見栄を張ることなく、他人を受け入れてくれるような居心地の良さがあると感じます。また、正直、海だけを考えると他にも魅力的な地はたくさんあります。けれど、働く場所が多いた

めか比較的若い方も多く、自然と生活とのバランスや気候が主人にはまったようです。私も実際に住んでから、その良さを感じるようになりました。と言っても、初めはふたり目を妊娠中で、助産院も知らずに隣町まで通院し、慣れない生活が本当に不安で、1年ぐらいしてから良い面を感じられるようになってきたのが本当のところですが、でも、何より子どもたちが伸び伸び育ってくれていることが一番嬉しいです。子どもにとっては、綺麗な星空や自然が日常で、幼馴染（おさななじみ）もたくさんいて、私からしたらうらやましい限りです。ここまで簡単ではありますが、移住の経緯をお話しさせていただきました。

次に、宿についてお話しいたします。御前崎は自然豊かで、海産物も美味しくて、すごく良い所です。しかし、マリンスポーツをしない方への知名度が低く、もったいないと思っております。現に私も、主人に出会うまで特に来たいと思ったことがなく、場所も定かではありませんでした。子連れで遊びに来た時は、主人はサーフィンで、子どもと浜辺しかいる所がなく、雨の日は困りました。そこでマリンスポーツを楽しむ方以外の、家族や仲間みんながくつろげる、おしゃれな場所があればと思うようになり、貸切やバーベキューのできる大きなウッドデッキのペンションを始めました。

のんびりした良い雰囲気をご堪能いただき、御前崎ファンを増やしたいです。主人は遠州灘の豊かさにすっかり魅了され、今では釣りばかりしています。その魅力を、ピーマンという愛称でユーチューブやSNSで発信し、現在4,000人以上フォロワーがおります。宿にも、御前崎に初めて来ましたとおっしゃるお客様も多くて、嬉しく感じております。夏には釣りガールとして有名な三浦愛さんと釣り船企画を行い、大変好評で、今後も継続的に企画を考えております。また人気釣りユーチューバーの方々ともコラボし、御前崎の釣りの魅力を全国に発信しております。まずは、少しでも地名を浸透できればと考えております。

主人は、コロナ禍で流行の早期退職に乗り、昨年末に16年の会社員生活を終了しました。今後は、この地域に貢献できる新しいことを考えているようです。またその様子も発信していく予定なので、よかったらご覧ください。私たちの夢は、あそこに行けば何か楽しいことがある、また行きたいと思ってもらえる場所を作ることです。錆びれることなく、子どもたちにも自慢の故郷を大人が協力して作っていきたいです。そのために、県でも、あまり知られていない御前崎のいい所をたくさんPRしていただけると嬉しいです。また今回、何名かにご意見を伺ったのですが、コロナ禍で飲食業が本当に大変なので、「食の安全静岡」を改めてアピールしていただきたいとのことです。あとは素人考えなのですが、錆びれている感じが出てしまっている海沿いとインフラの整備、防波堤など建てずに、自然の綺麗な景観はこ

のまま残していただきたいなと思います。

最後に、「おんまえ」と言われている御前崎には、素敵な方もたくさんいて、子どもの医療費や給食費も無料ですし、住みやすい場所なので、迷っている方の背中を押せるような政策と発信をどうぞよろしく願いいたします。最後に、主人からどうしても言って欲しいと言われたことがありまして、御前崎には感度の高い若者もたくさんいるのですが、実際彼らがどう動いたら良いかわからないとのことで、人材育成に対する投資をお願いしますとのことです。僭越ながら私の発表は以上です。ありがとうございました。

【発言者2】 皆さんこんにちは。小笠の手もみ保存会の会長をやらせていただいております発言者2と申します。同時に、「有限会社したんだ」という会社で代表をやらせてもらっております。先ほども紹介してもらいましたが、親子三代で頑張ってやっております。

それではまず、小笠の手もみ保存会ですけれども、会員が約20名ほどいます。お年寄りでもう出られない方もいますけれども、約20名の方は常に活動しております。

手もみを私が初めてやったのが今から35年ぐらい前です。当時、農林短期大学校で初めて先生に教えてもらったのが最初のきっかけですけれども、とにかく腰痛との戦いでした。腰が痛いのが覚えていません。あとのことはもうほとんど忘れまして。その後卒業し、うちの家業を継ぐこととなりまして、就農したんですけれども、その時にも周りに手もみ保存会に入っている先輩方がたくさんいらっしゃいましたので、その誘いで自然と流れるように手もみ保存会へ入会いたしました。

その時は、おじいさん方がまだたくさんいらっしゃいまして、その方が先生なものですから、とにかく流派っていうのがあるんですね。静岡県内に8流派あって、この小笠菊川地区は小笠流という流派ですから、小笠流を一生懸命教えてもらったのを覚えております。その後、私も県の手もみ保存会へ入会したんですけれども、県の手もみ保存会には資格の試験があります。平成18年に教師補というものを取りました。それで平成21年、3年後に教師を取りました。その5年後、平成26年に、師範といって手もみ保存会の中では一番上のクラスになりますが、それを取得しました。今思えば、先生方、小笠流を教えてくださいとおじいさん方のおかげで、師範まで取れたなあと感謝しております。

その後、いろんなことがありましたけれども、一番苦労したのが天皇陛下への献上茶園です。やったことのある人しかわからないと思いますけれども、天皇陛下へ献上するということは、100パーセント成功してお茶を献上しないといけないという、強烈なプレッシャーを

与えられましたね。そんな時に限って、大凍霜害です。一面、茶園が真っ赤になりました。どうしようかと思いましたが、茶園がうちのすぐ近くだったものですから、寒冷紗を掛けたりして、何とかその畑だけ助かりましてね。今思えば、その茶園が何とか天皇陛下に献上できて、本当にほっとしたというか、もう涙が出るぐらい嬉しかったのを覚えております。

あと、手もみをやっています、海外、台湾へ研修に行ったりしていました。それが平成17年頃ですね。ウーロン茶のことを覚えたいな、勉強したいなということで、山の方へ行ったり、町の方のお茶屋さんを見たり、そんなことを1年、2年とやっていくうちに、台湾の茶匠の一番偉い人、理事長さんとお会いすることになりまして、その方にいろいろ指導されました。台湾で日本のお茶の手もみをやってみないかというお話をいただきました。ありがたい話ですが、問題のひとつが焙炉(ほいろ)です。もちろん台湾に焙炉(ほいろ)はありません。日本から持っていかないといけない状況でした。もうひとりのメンバーが折り畳み式の分解式の焙炉(ほいろ)をわざわざ作りまして、台湾へ持って行って、いろんなものの飲料の博覧会へ出るようにと支度をしてくれました。1ブース10万円ぐらいしますが、向こうの方が出してくださったので、お言葉に甘えて、そこでやりましょうということで、手もみの実演販売をやることとなりました。しかし、これまたなかなかうまくいかないんですね、向こうでやると。まず、焙炉(ほいろ)とお茶しか持って行かず、他のものは全部日本に忘れてきましたね。急須は忘れるわ、ポットはないわ、その時に静岡県の事務所が台湾にありますので、そちらへ駆け込んでポットと急須と湯のみを貸してくれと。何も持って来なかったので申し訳ないけど貸してくださいという話をして、向こうで借りたのを覚えております。

言葉が通じない問題がありまして、1年目で英語はしゃべれないし、日本語しかしゃべれない。手振りで売ろうとしたんですけど、全く売れませんね、手もみのお茶。でも、そこにいらっしゃったお客さんで日本語をしゃべれる台湾の方がいらっしゃいましたので、来年もう1回チャンスがあるだろうということで、何とかその方を繋ぎとめて電話番号を聞いて、来年また来ますから通訳をお願いできませんかという話をして、1年目は帰りました。2年目は通訳の方がいらっしゃいましたので、お茶の実演販売で何とか売ることができましたけれども、難しい問題がいろいろありました。今から思えば、そんなに簡単に売れるものではないんですけども。向こうの方は、その当時からタブレットとか携帯で情報発信してくれるんですね。ここで揉んでいけば、一度に10台ぐらいタブレット、携帯が並んで撮ってくれます。そうすると、どこかで情報発信して、受け取った人がまた見に来てくれるというような繰り返しですから、2年目はそういうのがあって3年目、今度は手もみのお茶を買

ってくれる人が出てくるんですね。なかなかの値段ですけれども売れますね。10 グラム 1,000 円、100 グラム 1 万円ですね。そんな金額でも 10 個ぐらい束になっているお茶をごっそり買っていく人もいた状況でした。

台湾人の方は、お金をたくさん持っているという噂です。噂ですのでちょっとわからないですけれども。投資をするそうなんです、台湾人の方は。何かお金になることはないかということで、マンションを買ってみたり、家を買って人に貸したりして、あといろいろな会社にお金を出すそうです。そういうことも、1 年や 2 年ではなく、5 年、10 年と長い間行っているうちにだんだんわかってきました。ですから、よく海外でお茶を売りたい業者さんや、個人の方がいらっしゃいますけれども、やっぱり年数がかかります。信頼が厚くないと輸出はできないなと肌で感じました。台湾の人も話が大きいものですから、20 フィートのコンテナいっぱい寄こせと。手もみのお茶を 20 フィートコンテナにとすると、何十年、何百年かかっても無理だなと。それじゃあ、毎年 3 回ぐらいは足を運んで、向こうで付加価値をつけて売って、それで日本のお茶を知ってもらおうという考え方にしました。一度に売るのではなく徐々に広めていこうと、メンバーと力を合わせて、なるべく台湾へ行くような格好にしました。

何回も行くと、お金の面で少しずつ困ってきました。静岡県の空港利用促進事業がありましたので、そういう事業を使って補助をいただいて何回か行かせてもらって、今度は逆に向こうの台湾の方が日本に来るようになりました。台湾の方も手もみに興味を持ってくださいました。ですから、静岡空港を使いながら交流を深め、台湾を行き来できるのが今の私たちの考えであります。

あと、これからお茶の良い効能が発表されるんじゃないかという感じになっておりますので、是非ともコロナが収束しましたら、静岡県のお茶を静岡空港を通じて売り込んで、台湾の方と行き来をしたいと考えております。以上であります。ありがとうございました。

【川勝知事】 発言者 1 さんは 3 年前に移住されたということですがけれども、お話を承っていますと、ご主人様は御前崎の海を気に入って、15 年とおっしゃいましたかね、通い続けておられたとか。御前崎に惚れたご主人様に惚れた発言者 1 さんがいらしたと。非常にいい関係で、福井に行かれ、また千葉に戻り、そしてやっぱり静岡だと。とりあえず静岡市にお住まいになって、やっぱり御前崎だというわけですね。旦那様はニュージーランドにも留学され、また商社マンであったと。ですから、世界を股にかけた方が一番いい海だと選ばれた

所がこの御前崎だったということは、お聞きしていて誠に気持ちがいいということで。いいご主人、目利きのご主人をお持ちになって、また2歳と6歳のお子様がいらっしゃるということで、今はサーフィンだけでなく釣りにも親しまれているということですが、釣った新鮮な魚をお子様が食され、海とこの御前崎の海の幸を楽しまれる、ご家族素晴らしいなど。そして、あなた様のご両親様が最初心配されたけれども、今は本当に喜んでくださっているということが嬉しいですね。是非ご両親様もこちらに移住されますように、期待したいと思うぐらいであります。

そして、旦那様は仕事も辞めてここでやっていこうと。そして発言者1さんはこちらでペンションを始めて、ウッドデッキを作ってそこでバーベキューと。こちらは野菜もあるし、もちろん肉も。何しろ有名な夢咲牛は日本一ですからね。お肉も野菜も、もちろんメロンとかイチゴは有名ですし、そして海の幸があるということですから、本当に幸せ感が伝わって参りまして、そして幸せ感を自分たちもPRしたいとおっしゃっていただいて、市も県も、こういう幸せ感は共有して、是非PRをしたいと。その先頭に、発言者1さんご夫妻になっていただいて、私どももできる限りのお手伝いをしたいと思いました。そしてまた、ご主人様から感度のいい若者がたくさんいるからということで、御前崎は実は人材の宝庫でもあるんですよ。こうした宝庫になるべき、そういう可能性をご主人様は気づいていただいて、そうした人材を育てていくということがこれから大きな課題だと思いますね。良いお話をありがとうございました。

発言者2さんは、皇室に献上するお茶園に発言者2さんの所が選ばれたんですね。非常に厳しい霜の害があったその年に、どこがやっても難しかったと思いますけれども、発言者2さんの所に指定が行っていたのが皇室にとってもラッキーだったと思います。静岡県にとってもラッキーだったと思います。何しろ、手もみの経験だけでも30年以上ということで、かつ、お父上も、今はお坊ちゃまもなさっておられるということで、お茶の心を知る人だと。いろいろな産地から持って来たものを、どのぐらいの温度でとか、どういうふうにとというのは、おそらく声なき声をお茶から聞きながらなさっておられると。ついにトップ、小笠流の師範になられたということで、おめでとうございました。小笠流という名前がいいですね。8流派のうちでもトップクラスじゃないでしょうか。言わば、流派の中の流派のトップということですよ。

そして、良い話としては台湾との繋がりですね。県の立場から言いますと、ポットや急須を持って行くのを忘れて、その時に県の事務所に行っていたと。これが嬉しいですよ。

県として47都道府県ありますけれども、台湾に事務所を最初に置いたのは沖縄県です。近いですからね。次が静岡県なんです。そこに行かれたっていうのが、これまたやっぱり発言者2さんの幸運のなすところで、勘がいいんじゃないですか。

そして、1回目に言葉の問題を感じられて、次に挑戦されたと、これがいい。つまり1回きりにされなかったと。その時に、富士山静岡空港があって、静岡県が活用できることに気づかれて活用している。台湾との関係で、発言者2さんは実際上は、もうほとんど大使ですよ。実質的な大使ですね。台湾は1時間しか時差がないので時差で苦しむことがないですよ。大きさが九州ぐらいですから適当で、親日的で、だから言葉が通じなくても安心して安全なんですね。で、食べ物も違くと。向こうもお茶を飲まれますけれども、日本のお茶とはやや違うということで、日本の料理にはやっぱり日本のお茶が合うわけですね。これに投資をする人が出てきたということで、発言者2さんの「したんだ」のお茶はブランドとして売ればいいなと。やってください。あなたならできる。

一番最後におっしゃったお茶の効能なんですけれども、機能性という、要するに体にどういうふうに良いかということなんです。これが良いんですね。インフルエンザに効くことはもうわかっております。予防にもなりますし、様々な成人病に効くことは科学的に証明されているんです。お茶を飲むと健康に良いことは分かっているわけですが、特に菊川のお茶がいいんじゃないですか。御前崎もつゆひかりがあります。また違うわけですね、それぞれ。その違いがいいじゃないですか。我々は、お茶を皆さんに親しんでいただくこと、愛飲条例を作りました。全県下に800ぐらいの小学校、中学校があるんですけれども、今、90パーセント以上の小学校、中学校でお茶を出してもらっております。将来のお客様ですからね。しかも体に良いということで、みんながもっとお茶を飲むようにすれば、ここから発信できるんじゃないかと。

千葉のご両親様には是非、御前崎のつゆひかりと菊川の深蒸し茶をお送りいただきまして、新鮮なお魚を料理して食べれば、こんなに幸せなことはないんじゃないかと思えます。最後はお茶で、翌日は非常に気持ちよく朝起きられるというわけで、このふたりのコンビが将来、この地域の発展に繋がりそうな予感を受けました。ありがとうございました。

【発言者3】 こんにちは。菊川市消防団女性消防隊の発言者3と申します。菊川市の女性消防隊は平成22年に5名で発足し、現在は8名で活動しており、私は発足当初から隊長として10年以上在籍しています。消防団というと男性のイメージが強く、災害現場での活動を

思い浮かべますが、私たち女性隊は男性団員とは違い、火災現場での消火活動などは行いません。それでは、女性隊がどのような活動をしているのか主な活動をご紹介します。

まず一つ目は、市民の皆さんへの応急手当普及活動です。万が一の事故や急な病気などで倒れた方に対して、救急車が到着するまでの数分間に、その場に居合わせた方が行う応急手当が、その患者さんの生死を左右する可能性があるということを伝え、心肺蘇生法やAEDの使用法、また、のどに物を詰まらせた時に行う異物除去法などをわかりやすく丁寧に教えています。女性の受講者から、指導員が女性だと質問しやすく安心感があると嬉しいお言葉をいただき、やりがいがあります。

二つ目は、園児に対しての防火啓発活動です。市内の幼稚園、保育園の子どもたちに向け、花火教室や防火教室を行い、安全で正しい花火の遊び方を、実際に子どもたちと手持ち花火を楽しみながら説明したり、火災発生時の逃げ方や自分の衣服に火が燃え移った場合の対処方法など、火や煙の怖さを実演を交えてしっかりと教えています。子どもたちの笑顔に触れ、私の方が元気をもらっていると感じています。

三つ目は、一人暮らしの高齢者に対しての防火PR活動です。菊川市を3中学校区に分け、1年に1地区を対象にお宅を訪問し、防火診断を行っています。防火診断は、火災、電気、地震などの項目について高齢者の方に質問し、答えていただくという簡単な内容ですが、その質問をすることで火災が発生しやすい箇所がないかをチェックしたり、消火器と住警器の有無や使い方がわかるかなどを確認しています。その際にも、家に来るのが女性だと安心するというようなお言葉をいただき、私たち女性隊が必要とされていることを実感しています。

このように、様々な場面で女性の力が必要とされていると感じた私は、サービス介助士という資格を取得しました。サービス介助士を簡単に説明すると、元気に生活している高齢者や障害のある方がスーパーや駅などで不便を感じているような時に、何か私にお手伝いできることはありますかとお声掛けすることです。もちろん、車椅子の取り扱い方や、視覚障害、聴覚障害の方の介助方法なども習得しましたが、一番勉強になったのは、優しく丁寧に声を掛けする心のバリアフリーという考え方です。私が女性隊として活動していく上で、とても大切にしていける部分になりました。

しかし、コロナ禍で人との距離を取らなくてはいけなくなったこの1年は、女性隊の活動も制限され、思うようにできませんでした。でもコロナ禍でも災害は発生します。もし今、大勢の方が避難するような状況になった場合、私たちはどのように対応すれば良いのか、もう一度考えなければなりません。避難所へは老若男女、様々な方が来ますので、女性ならで

のは優しさや細やかさが必要になってくると思います。ですから、各自主防災会に男性の防災委員だけでなく女性の防災委員も置き、私たち女性隊と連携することが望ましいと考えています。そうすることで、今までよりも安心して安全な地域づくりができるのではないかと思います。以上で終わります。ありがとうございました。

【発言者4】 よろしくお願ひします。NPO 法人 Earth Communication の代表をしています発言者4と申します。よろしくお願ひします。僕たちは自然体験活動をメインに活動させていただいています。自然に関わる活動をしているということもあり、活動フィールドの環境保全活動にも取り組ませていただいています。僕たちは、僕自身がもともと障害児福祉の療育に仕事として携わっていたので、そういった考え方だったり、観点も織り交ぜた形での自然体験活動を行わせていただいています。御前崎市の社会教育課の皆さんと一緒に御前崎クエストという活動を3、4年ほど前にスタートさせていただきまして、今、子どもたちから大人の方まで幅広い年代の方に対して、地域の自然だったり、産業とか文化に携わるような体験活動を提供させていただいています。

そういったこともさせていただきながら、僕自身が海に関することが得意なものですから、小学校の体験学習の一環としてマリン体験の活動のプログラムを作らせていただいたり、海辺の安全教室だったり、あとは、この後お話しさせていただく海的环境についてという体験的な学習の場も設けさせていただいて活動しています。

御前崎市と牧之原市に隣接する久々生（くびしょう）海岸があります。僕が小学生だった20年ほど前は、僕の実家から一番近くの海岸で、一番馴染みのある海だったんですけども、今は陸から海を見ることもできないような状況になっています。それは、安全面を含めて防波堤ができたり、20年ほど前に静岡県で開催されたわかふじ国体の時に御前崎港マリーナが造成されたことによって、海岸自体が見られないし、立ち入ることが簡単にできない場所になってしまった海岸があるんですね。3年ほど前、海上からその海岸付近を訪れた際に、あれっというものが海を漂っていました。そういったきっかけで、いろいろな方にご協力いただきながら、簡易的な海底調査をさせていただいて、御前崎には今まで生息していなかったコアマモという、全国的には皆さんが頑張って養殖して増やそうとしている植物、海の中に生える植物が自生群生しているということがわかりました。誰にも知られていないということもあり、どういう生き物がその周辺に生息しているのかということも簡単に調査させていただきながら、いろいろな方に報告して、資料を作ってお渡しさせていただいています。実

は、御前崎ではなかなか見ることができないような生き物が、コアマモの周辺にはたくさん生息しているということがわかって、昨日も清水にある MaOI-PARC でその話もさせていただいたんですけども、おそらくそこで新しい環境が形成されて、一つのコミュニティが作られているのではないかということもお話ししました。

僕たちとしても、これからもっともっと、研究まではいかないかもしれないけれども調査しながら、全国的に貴重とされる環境を市民も含めてもっと多くの方に知っていただきながら、御前崎の貴重な環境を守っていけるようにしていきたいなと思っています。

実は、その海岸にすごい量のゴミが溜まっていました。陸から見ることができない海岸なので、どれだけゴミが溜まっているのか誰も気づかなかったと思うんですけども、そういった生き物も含めて調査をさせていただく中で、ゴミがとんでもないことになっていることに僕たちも初めて気づきました。今回、コロナで自然体験活動がなかなか行えない状況になり、時間ができたこともあって、集中的にゴミ拾いをしようということで、月に3、4回程度活動し、1回あたりの記録だったり、ゴミがどれだけ堆積するのか、地形的な特性も含めて、いろいろなことを記録として残させていただきました。2020年の1年間かけて活動させていただいてきました。

そういった活動を通して、コアマモが自生群生するような環境ができ上がったという、環境の変化も含めて、特殊というか、御前崎にはなかった環境が形成された理由も少しずつ見えてきている状況です。継続して、その環境が保全されていくように、今はSDGsで海の環境、海の生き物、海の豊かさを守ろうということもありますので、僕たちなりにできることに少しずつ取り組んでいって、海の環境がもっともっと良くなるように活動を継続していきたいなと思っている次第です。簡単ではありますが、僕たちの活動の紹介になります。ありがとうございました。

【川勝知事】 今回は、発言者3さんと発言者4さんから、それぞれ全く違う話ではありますが、ためになる話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。特に発言者3さん。10年あまり、菊川市の消防隊女性隊員隊長ということで、今日は隊長の制服を着ていただきまして、さすがにぴったりと合っていると言いますか、十年一節と言いますが、とても素晴らしい活動をされていることに敬服いたしました。ありがとうございます。

今、女性消防団の団員は少ないわけです。消防団員は、静岡県全体で大体2万人前後いらっしゃるんですけども、10年ぐらい前はのうち1パーセントくらいしかいなかったんで

す。1パーセント、200人ぐらいしかいらっしやらなかったんですけども、今は400人前後にまで伸びてきました。菊川市の消防団でも当初5人だったのが、今8人になったということで少しずつ増えてきているわけですが、やはり発言者3さんのお話にありますように、女性消防団員の得意とする分野があるわけですね。そして消防団というのは男だという固定観念があるので、なかなか参入しにくかったんですけども、ようやく2パーセントまでになって、こちらも8人になられたと。そして、なぜ女性が必要かということで、例えば園児を相手にする時、あるいは高齢者を相手にされる時、そういう時に女性なら安心してということと、子どもたちも花火であるとか防火についていろいろ学ぶのに、お姉さんから聞いた方が優しい感じがしますから、親しみやすいということがあって、それがすごく大事だと思います。それから、心肺が停止しかねない時に、それを蘇生するためのものとかAEDとか、こうしたものの重要さにお気づきになって資格をお取りになられるということで、当然5人から8人になられた方たちも同じようにされているのではないかと想像しますけれども、非常に頼りがいのあることではないかと思えます。いざ火事になった時に応急手当をどうするかというのは、まさに命に関わることです。資格を持っている人は自信を持って応急手当ができ、その時に女性が活躍できるのだとおっしゃってくださっています。まだ女性隊員がいらっしやらない市町もございます。是非これは1割に伸ばしたいということで、消防隊の隊長の方に何度も申し上げているんですが、消防団員それ自体のなり手も少なくなっておりまして、県議の皆様方のご助言を賜りながら、今は学生さんにもなっていたり、あるいは事業所で消防団員を出していただいている所には税制で優遇したり、地域の安全のためにやってくださいませんかとか働きかけている中ですが、その中に男女共同でできるんだということを入れながら、女性の方も、こんなに格好いい、こんなに立派な仕事ができるんだと入っていけば1割も夢ではなくなるのではないかと思う次第です。

そして、サービス介助士という資格があるということで、これは車椅子だとか難聴の方とか視覚障害の方たちに対してサービスをする、介助できる資格をお持ちであるということなんです。一番大事なお話は最後にありましたように、コミュニケーションといいますか、心のバリアフリーと。苦しい状況を持っていらっしやる方が安心して話ができるという、そういう心を培うことが実は最大の課題であるということで、それを自覚されているので、サービス介助士の模範でいらっしやるのではないかと思います。これも女性消防団員隊長としてやっていらっしやる中で、その重要性に気づかれたということですので、これは地域コミュニティの、地域力の指標みたいなものではないかと。ですから、発言者3さんのような立

派な女性の消防隊員が増えることが本当に地域の力を上げていくのではないかと思います。いざ災害が起こった時、男女区別なく災害が襲ってきますから、その時に女性の頼りになる存在があることは本当に大きいと。避難所の運営も、女性と男性ではケアの仕方も違いますし、お子様がいらっしやったり、あるいは乳飲み子がいらっしやったりする場合もあるし、なかなか大変です。そういう意味で、消防隊員をまず1割に上げていくことを目標にしながら、そういうモデルを菊川から作っていただければと。本当に良いお話をありがとうございました。

それから発言者4さん、もともと障害者の療育をされていたということで、難病患者等訪問介護員、訪問介護員2級資格、全身性ガイドヘルパー、行動援護従事者、ベーシックインストラクター、それからウォーターリスクマネジメント、それとか、特殊小型船舶操縦免許、わな免許、狩猟免許、ファシリテーター、プロジェクトワイルド・ウェットエデュケーター。環境学習指導員、自然観察指導員、日本自然保護協会。ともかくものすごい資格を持っている方がここにいるということで、それを数分で活動を話していただいたんですけども、子どもたちは学校だけで育っていかないなと。こういう方を通して、子どもが環境に目覚め、地域に目覚め、そして自立していくんじゃないかと思いました。そして、先ほどあまり言われませんでしたけれども、名刺に自然楽校事業ですか。楽校というのは、“楽しい”“学ぶ”と書いて。そして自然と繋がることとか、未来へ残す事業とか、こういうものが名刺の裏にありまして、子どもが相手なんです。ですから、子どもさんを現場で教育しながら、おそらく海が中心かもしれませんが、自然と親しみ、そしてそういう人間と良き自然を未来に伝えていくと。これはSDGsモデルですよ。

お育ちになったすぐ近くに久々生（くびしょう）海岸があって、そこが見えないってことで、行ってみたら、ものすごいゴミがあって、自分の生まれた時の原風景なのでしょうね。これはもう見捨てられないということで、掃除から始められたと。そして今度、その海にコアマモが生息していることに気づかれて、これが何と準絶滅危惧種で、そのコアマモの周辺に非常に珍しい生物が生息しているということにも気づかれて。今度、MaOI-PARC、マリンオープンイノベーションプラクティカルアンドアプライドリサーチセンターという、これはマオイパークと言っているんですけども、そのセンターが清水にオープンしたと。そこに訪問をされたということで、まだオープンしたばかりなんですけれども、そこはもう、ものすごい偉い先生がたくさんいらっしやる所であります。問題はどこにあるかという、実際そこにある海にあるわけですね。この久々生（くびしょう）海岸等々に実は問題があっ

て、もちろんゴミの問題もあります。それから、海の中に散らばっているプラスチック、微小なものから大きなものまでありまして、これが海洋生物を痛めつけて、それが結果的には人間も痛めつけるということになっていると。海洋には知られていないものがいっぱいあると。地球全体の表面積の3分の2が海ですから。そういうことをおそらく認識されているから、NPO 法人 Earth Communication という、ばかでかい名前、つまり久々生（くびしょう）海岸コミュニケーションじゃないんですよね。何しろアースなんですよ。御前崎から見たら、向こうは太平洋ですから、全世界の3分の1の海が太平洋ですからね。その海が全体の3分の2ですから、それを狙ってローカルに根差しながら、このアースをしっかりとやっつけていこうと。全くこれはサステナブル ディベロップメント ゴールズと言われるSDGsの、人類社会が今、提起している持続可能な環境をどう作っていくかというのは、皆一人一人、その現場でやらなくちゃいけないので、しかし、その問題は実は他の地域に通じているんだと。それをどう教えるかは学校の教室だけでは教われません。海に出る、あるいは海岸に出る、そして自然に親しむ。体で覚え、それを教えることのできる能力を持っている人が、私はこれからの次代の青年を作っていくんじゃないかと。

だから消防にしても、あるいはこういうマリン関係にしても、お茶にしてもそうです。それからマリンスポーツですね。こうしたものは英数国理社と関係ないんですよ。だから、発言者2さんが手もみの名人、師範であることによって、その力は海外で認められるようになっているということですね。ですから、地元の人が地元に応じた形で立派な人材を作り上げていくということが大事なんじゃないかと。確か、飯塚翔太君は御前崎の出身じゃないですか。彼は陸上で、ブラジルで銀メダルを、400メートルで取られた。この間も200メートルで優勝されていました。彼も中学の時に陸上に目覚めたそうですよ。彼は、中学の時に誰かに、君は陸上と。僕は陸上で行くと決めたんですね。この、実学とでも言いましょうか、こうしたものの大切さを、今日は、今の発言者4さんの話、発言者3さんの話、それから発言者1さんや発言者2さんのお話を聞きながら、改めてその重要性を実感したということでした。

我々は、他の地域にもそういう人がいらっしゃるの、それをもっと掘り起こして、学校の先生と協力しながら地域ぐるみ、社会総がかりで次世代の子どもたちを育てていこうと。それからちなみに、コロナ、御前崎は確か人口は4万人ぐらいですか。菊川は5万人。御前崎にしる菊川にしる、確か感染累計で10人とか20人でしょう。10人ですよ。だからいかにコミュニティの方々の、つまり新しい行動様式を取らなくちゃいけないということについて、

皆さんがそれを自己管理しながら守っていらっしゃるかという、その証がこういう数字に表れているんだと。こういうコミュニティを作りにくいのが大都市です。しかしここは、菊川にしろ、あるいは御前崎にしろコミュニティができていて、自己管理ができている人たちがいて、そこに学校教育とは違う形で、いろんな人がその地域の人材発掘のために、また人材を育てるために頑張っているということで、その重要さを今日はじっくりと拝聴したというふうに思った次第でございます。感心しました。ありがとうございました。

【杉本局長】 冒頭申し上げたとおり、ユーチューブで配信しておりまして、いくつかご質問等が来ていましたら、ここでお受けしたいと思います。

寄せられたご意見は2件ほどです。

一つ目は浜岡原発に関するご意見が来ております。視聴者1様という方でございます。

「川勝知事にお伺いいたします。浜岡原発の敷地内を横断するH断層が、活断層の可能性が指摘されています。南北方向の活断層の存在も指摘されており、このような状況で再稼働はあり得ないと思いますが、この件についてどう思われますか」というご質問でございます。

【川勝知事】 浜岡原発につきまして、視聴者1さんという方からご質問いただきまして、ありがとうございました。現在、平成23年5月14日から、1号機、2号機、3、4号機、全部停止していると言いますか、動いておりませんね。1号機、2号機はもう廃炉処分が始まっていると。ただし、この廃炉されたいろいろな廃棄物をどこに持っていくかということについては、持って行き先が決まっていないということですね。それから3号機、4号機、5号機、実はその次に6号機を造るということになっていたわけですね。それから4号機はプルサーマル、すなわち、もう1回、再利用させるための原子炉にするという、これも無期限延長です。6号機も造るのを無期限延期と。要するにやらないということになりまして、丸10年経ちました。浜岡原子力発電所は中部電力が持っている唯一の原子力発電所です。全国に10の電力会社があります。そのうち沖縄を除きまして9つの電力会社が、それぞれ原子力発電所を持っているわけですが、その中で一番原子力発電所に依存度が少なかったのが中部電力でございまして、当初から1割ぐらしか原発に依存していないと。ところが東京電力や関西電力は4割とか5割依存していると。九州でも4割ぐらいい依存されていたということで、止まると電気がつかないということで非常に難しい。ところが、東日本大震災以降、静岡県あるいは中部電力管内では、節電とか、あるいは自然再生エネルギーを使うと

かそういうことを通じまして、今も電力需要が逼迫しているということがなくなっていますので、実は原発抜きでやれる状況が続いているわけですね。ですから、まずはどうしても必要だという他の地域の原発とは全く違うということです。

それからもう一つは、中部電力株式会社と静岡県との間の信頼関係が、他の電力会社と、それぞれ電力会社が持っている原発の立地地域との関係と比べますと、信頼関係がおそらく最高だということです。つまり全ての情報が全部手に入る形になっていると。それはもちろん、県の中に設けられています原子力安全何とか委員会というのが3つか4つあるんですけども、そこで中部電力の方たちにいろいろな情報を求めまして、もちろん公開ですけれども、そこでいろいろ出していただいているということがあります。

それから今、浜岡原子力発電所は一種の研究所になっているのをご存知でしょうか。全国、海外も一部入っていますけれども、こういうことを研究したいというのであれば応募していただきまして、大体10件ぐらいを採用して、その研究結果は1年後に必ず発表する。これがもう7、8年続けられているんじゃないかと思います。そういう意味で、これくらい開かれた浜岡原子力発電所という存在は日本にはないと思います。

再稼働があるかどうかということですが、原子力発電所には、いったん使った燃料棒を使い終わると、放射線を出していますから、危ないので冷やし続けなくちゃいけないので、燃料プールという所に収め直すんですね。これを通常、定期点検と言っているんです。定期点検というのは点検していると思いがちですが、定期点検というのは13ヶ月ごとに今動いていた原発から燃料棒を取り出しまして、燃料プールに入れて新しい燃料棒を入れ替えるという、それを定期点検といいます。この定期点検、この3、4、5号機の燃料プールにはほぼ9,000体の燃料体が入っているんです。ところが全体でどれぐらい入れられるかというと、1万体制しか入れられないんです。ということは、あと1,000体制しか入れられないわけです。ところが、3号機、4号機、5号機を全部動かしたとします。すると13ヶ月後にはその燃料棒を取り出して新しいものを入れなくちゃいけません。取り出したものを入れて、3号機、4号機、5号機一緒に入れると、どんなに少ない燃料棒の入れ替えでも2年、3年で全部一杯になります。場合によっては、それぞれ300体ぐらい入れると1年間で1,000体近くなりますから、燃料棒の入れ替えができないので動かしようがないんですね。だから、今の燃料プールにある燃料棒をどこかに持っていくということでもない限り、ただ持って行く所は今、ありません。六ヶ所村も持って行ける状態ではありませんし。そういう状態ですから動かしようがないと。

しかし、安全対策は、例えば防潮堤を 22 メートルまで引き上げられたとか、先ほどおっしゃったH断層というのがあると、そこについても完全にまだ答えが出ているわけではありません。ですから再稼働できる状態にはないと。しかも 10 年間、稼働しないで電力需要は十分に賄っていると。しかもそれは、メンテナンスがちゃんとできていることでもあるんです。メンテナンスがちゃんとできていないと、福井県のもんじゅ、高速増殖炉ですね、これが 1 万点ぐらいメンテナンスができていない箇所があって、もう元に戻せなくなった。あまりにいい加減に放っておいたから。つまり、働いている人のやる気がなくなったから、もう要するに、いい加減だったわけですよ。だから結局、廃炉になったわけでしょ。ものすごいお金を投じて、つまり公金を投じて、結果的に廃炉にしたと。ところが、静岡県の浜岡原子力発電所は研究対象ですから、そこで働いている人はいろいろな人が研究対象として見に来られたりするから、やる気があるわけですよ。廃炉について、今度、福井の高浜ですか、あそこでは 40 年を 60 年に延ばすと言われました。ところが、いずれは廃炉にしなくちゃいけない。で、廃炉になった時に、放射能が非常にたくさん受けている所と、そうでない所があると。それをどうするかということについて、共同研究も、浜岡原子力発電所を対象にしてされているんですよ。確かアメリカも加わってきたと思います。そういうふうに、あそこはいろいろな形で役に立っているんですね。発電として役に立ってはいません。だけど、存在それ自体が、海からの津波だとか、あるいは断層に対してどうするかとか、それぞれに対して、少なくとも安全対策は万全にするということです。

そうしたことで、ご心配の向きがあるかもしれませんが、そこに 3,000 人ぐらい働いておられて、おそらくお友達とか親戚の方も働いておられるかもしれませんが。その方たちに対して、いわゆる誹謗中傷も起こりませんでしょう。つまり役に立つことをされているわけです。ですから、今、動く見込みは、実質上無いですね。どうしたらいいのでしょうか。私は、廃炉の技術で、もし良い技術ができれば、全て世界中の原発は必ず廃炉の時期を迎えます。その時に、日本が浜岡で作った、発明されたか、あるいはイノベーションで作られた廃炉技術は売れる可能性がありますから。

それからもう一つ、あそこに 360 万キロ、370 万キロワットという、ものすごい、3 号機、4 号機、5 号機が全部動くと、300 数十万キロワット分の電力を供給できるわけですよ。ところが今、供給しないで受電しているんですね。あそこにせっきゃく高圧電線が出ていると。何らかの形でそれを活用したらどうですかと。その活用方法についても、まだ研究成果が出ておりません。ですから、いろいろな形であその施設が使えるなど。そしてまた、これは

もうほとんど可能性が今のところはありませんけれど、核分裂で、いわゆるエネルギーを出すという。これは放射能が出てきます。だけど核融合する。つまり太陽みたいなものですよ。これをすると放射能は出ないんですね。だけど、有害物質が出ないとも限らないわけで、こうしたものは、実は、浜松の企業が、太陽を作るために今、研究されているわけです。研究の過程で様々な医療に役に立つ器具を出されている。それからまた、光電子増倍管という、この前亡くなられた小柴先生とか、梶田先生などが、いわゆるニュートリノを発見されましたけれども、そうしたものを検出する器具を作って、これは、この光を作ると言いますか、太陽を作るっていう壮大な志を持っておられて、そこは核融合をさせるということです。そういうことで、そういう可能性も、あそこで実験すればどうかということがあります。他にも、私もいろいろと議論しているところがありますけれども、視聴者1さん、差し当たって動く可能性はないということです。大丈夫です。

【杉本局長】 ご意見がもう一つ、今来ました。視聴者2様からでございます。産廃施設に関するご意見ということで伺っております。

「住民投票から1年、住民の意思は明確に示されたにもかかわらず、産廃問題はいまだ解決されず、市政に重大な混乱をもたらしています。住民投票の結果を受け、市長は建設反対を表明し、池新田財産区管理会に対し土地賃貸借契約解除の要請を行ってきましたが、同意は得られていません。事業者も財産区管理会の計画容認を理由に計画の維持を表明し、膠着状態が続いています。解決策が見当たらず、これ以上、市政の混乱を続けることのできない今、もはや知事に調停をお願いするしかございません。ご意見を伺いたいと思います。」

【川勝知事】 市政が混乱しているというよりも、市政の方針は明確ではないでしょうか。財産区はこういうふうを活用したいとおっしゃって、そして全体の同意を得ることのないまま、ここを活用したいと。それで事業者が、じゃあこういうことでということで、だから事業者は別に悪いことをしたわけじゃないんですね。しかしながら、市民全体の意見だと、財産区全体の意見だということで、それが本当にそうだったのかどうか、そうでないことがわかって、住民投票になって、そして市民全体としては9割が反対だとおっしゃったわけですね。そういう方向で、市長さんはそれを市政の根本に据えて事業者と交渉されていると。私は、これは大したものだと思っています。他の市では、住民投票をしてくださいというのを門前払いした所もあります。それを、御前崎市議会は受け入れて、反対もありましたけれど

も、賛成多数で住民投票をやって、市民の9割が反対だと言って、それに対して市長がしっかり動いておられる。これは明確じゃないですか。市政は混乱しているとは私は思いませんね。むしろ賛成に回られた方、その方が反省をしていただいて、市民の代表であるならば、市民の大半が、9割が反対しているということに対して、当初、やや不透明な形で事業者に話が行った経過もあるやというふうに承知しておりますので、それを反省していただいて、今回は申し訳ないけれども、この事業は撤退するというふうにしていただくように、そういう賛成をした人たちが反省すべきだと思いますね、私は。私は現在の市政は、今回の選挙で明確に方針がされている市長を選んだということで、万機公論に決すべしということがよく、これは広く会議を興し万機公論に決すべしというのは、みんなでいろいろ議論をして、そして公の議論で決めましょうと。公の議論で決まったのは何かというと、産廃の建物はいらないということを市民が言われているわけですから。少数意見は大切ですけれども、賛成してそれを推し進めた人たちは、どこが不分明な所がありますから、それをしっかり反省されて、市民の大方の意見は反対だと。自分たちはそれをしっかり踏まえていなかったと、大変申し訳なかったということで、市長さんではなくて、そういう方たちが本来頭を下げて、詫びを入れられるべきだと思いますね。事業者自体は悪い会社じゃないんですよ。それだけに非常に気の毒なことをしたと。だけど、私は、市民の全体の代表者が、市長さんですけれども、その市民の意向を受けて、一時期自分がかんこを押したにもかかわらず、市民の意向はそうじゃなかったと間違いを認めて、今、この過ちは改むるに如かずですから、それをやっぴらっしゃるので、市の方針は明確であるということで、私自身は、こういう市長があることを御前崎の人たちは誇りに思えばいいと思います。

今回、新しく市長になられた長谷川市長にも、そういう広く会議を興し万機公論に決すべしと。第三条には、各々志を遂げ、人心をして倦まさらしめん事を要す、と。もう嫌だな嫌だなと思うようなことを市民が思わないようにするというのがすごく大切で、これは江戸時代に日本人が培った知恵が、天皇陛下、明治天皇のまだ16歳の天皇陛下の詔として出されたもので、欧米の影響で出てきたものじゃないんですね。日本が培った、広く会議を起こして万機、全ての事柄は公の議論で決めていこうと。それを今、実践しているのが御前崎なので、頑張っしてほしいと思います。そして民主主義は、基本的に大勢の意見に従うということでございますので、そこはごねないということが大事です。誰が市政の混乱をもたらしているのかと私は思っておりますが、それは少なくとも市長ではないと。市議会の大半の方たちではないと思います。以上です。